



雪小だより 3月号

令和8年3月2日
大田区立雪谷小学校
校長 大曾根 努

継続が根を張り 新しい旅立ちへ

校長 大曾根 努

光り輝く春の陽光が差し込み、年度末の慌ただしさの中にも、暖かな春の足音が聞こえる季節となりました。先日は、ご多用の中、本校の音楽会・学校公開にお越しいただき、誠にありがとうございました。

音楽会では、こどもたちの情熱が溢れる素晴らしい時間を共有することができました。合唱での澄み渡る歌声、合奏での息の合ったリズム。その一つひとつに、聴いている私たちの胸が熱くなったのは、単に技術が優れていたからだけではありません。そこに至るまでの「過程」が、音色の中に宿っていたからではないでしょうか。

思い返せば、練習が始まったばかりの頃は、音が合わずに戸惑う姿や、難しいフレーズに苦戦する姿も見られました。しかし、こどもたちは諦めませんでした。朝の練習、休み時間の自主練習、そして学年・学級全員での練習。毎日、少しずつ、少しずつ。その積み重ねこそが、本番で見せたあの堂々とした姿、そして仲間を信頼する眼差しへと繋がったのだと感じております。

直後の朝会では、こどもたちに『継続は力なり』についての話をしました。この言葉の真意は、単に同じことを繰り返す習慣を指すものではありません。

「たとえ小さな1歩でも、歩みを止めなければ、想像もしなかった高い場所に到達できる」という話です。調子が良い時も悪い時も、自分を信じて積み上げてきた時間は、決して裏切りません。音楽会を終えたこどもたちの満足げな表情は、自分の力で「継続」の価値をつかみ取った自信に満ちていました。

シドニー五輪金メダリストのマラソン選手である高橋尚子さんは、現役時代、思うような結果が出ない苦しい時期には

『何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。
やがて大きな花が咲く』

という言葉大切にしていたそうです。漢字を覚える、体を動かす、優しい言葉をつかう…日々の生活を丁寧に過ごして積み重ねること、継続していても結果に表れないことも、明日を生きるための確かな「根」となっています。

さて、この3月は、こどもたちにとって大きな節目となります。6年生は、6年間で培った力を糧に、新たな世界へと卒業していきます。1～5年生は、今の学年で学んだ全ての経験を胸に、1つ上の学年へと進級します。

ご家庭でも、この1年の足跡を振り返る際、結果だけでなく、継続して頑張ってきたこと、お子様の「根」がこの部分に光を当ててください。それらへの承認が、こどもたちの自己肯定感を育み、次のステージへと踏み出す勇気になります。

最後になりますが、「学校・家庭・地域」が手を取り合い、共にこどもたちの成長を喜び合えた1年であったと感じております。学校の至らぬ点を補っていただき、常に前向きな声を届けてくださった皆様に、深く感謝いたします。

次年度も、本校が地域に根ざし、こどもたちの笑顔があふれる場所であり続けられるよう尽力してまいります。1年間、ありがとうございました。

3月の目標

一年の生活を反省し
次の学年への心構えをもとう

1	日		
2	月	放送朝会 卒業式練習(始) 理科委員会実験教室(1年)	
3	火	理科委員会実験教室(2年) 運動委員と遊ぶ(中学年)	
4	水	学習タイム 保護者会・小学校生活最後の思い出を作ろうの会(6年)	
5	木	お話会トムテ(1年) 委員会 理科委員会実験教室(3年) 運動委員と遊ぶ(高学年)	
6	金	午前授業 6年生を送る会	SC
7	土		
8	日		
9	月	放送朝会 保護者会(1・2・3年) 理科委員会実験教室(4年)	
10	火	安全指導 理科委員会実験教室(5年)	
11	水	学習タイム 保護者会(4・5年・杉の子)	
12	木	お話会トムテ(2年・杉の子) クラブ 理科委員会実験教室(6年)	SC
13	金	運動朝会(1年・杉の子)	SC
14	土		
15	日		
16	月	放送朝会 杉の子学級説明会	
17	火		SC
18	水	学習タイム	
19	木	卒業式予行練習 午前授業(1~4年) お話会トムテ(5年)	
20	金	春分の日	
21	土		
22	日		
23	月	離任式 午前授業 給食終 大掃除 卒業式前日準備	
24	火	卒業式	
25	水	修了式 午前授業	
26	木	春季休業日(始)	SC
27	金		
28	土		
29	日		
30	月		
31	火		

※SC…スクールカウンセラー

※3月の避難訓練は予告なしで行います。

※24日(火)の卒業式は、6年生と、5年生が参加します。
1~4年生は、お休みです。

卒業に向けて(6年)

6年担任

修了、そして卒業のときが近づいてまいりました。こどもたちは5年生より「自律・集団・責任」という学年目標を掲げ、過ごしてきました。

4月当初は、最高学年という重圧に戸惑う姿もありましたが、日々の生活や行事を経るごとに、こどもたちは見違えるような変化を見せてくれました。自分の行動を律する「自律」、互いの個性を認め合い高め合う「集団」の力、そして学校の顔として役割を全うする「責任」感。

特に行事やクラブ・委員会活動で見せた、誰に指示されるでもなく今、自分にできることを考えて動く姿は、まさに目標を自らのものにした証でした。この全年で培った自律した強さと集団としての絆を糧に、こどもたちは今、自信をもって未来への一歩を踏み出そうとしています。

6年生を送る会

特活部

3月6日(金)に、「6年生を送る会」が実施されます。在校生は、6年生へ感謝の気持ちを伝える場として、6年生は、在校生からの気持ちを受け取り、卒業への意識を高める場として、位置付けられています。

ステップタイムや委員会活動では、学校のために率先して活動し、運動会や音楽会等の学校行事では、在校生の手本や憧れの姿として活躍してくれた6年生に、しっかりと「感謝の思い」が届けられるよう、各学年で準備をしています。当日は、温かな会になるようにしていきます。

校内研究のまとめ

研究推進委員長

今年度の校内研究では、国語科「話すこと・聞くこと」の授業研究を行ってきました。この研究をスタートするにあたり、こどもたちに「話すことや聞くことは好きですか」というアンケートを取りました。どの学年からも「とても好き・好き」という肯定的な回答が8割以上ありました。

この結果から、こどもたちの話す力・聞く力を授業の中でさらに伸ばしたいと考え、「どの児童も主体的に話し合いに参加できるようにする工夫」と「国語やその他の学校生活での話すこと・聞くことにつながる常時活動」の2つを研究の視点として取り組み、各学年で研究授業を実施しました。

研究を通して明らかになったことは、「自分の考えをもつ」ことです。自分の考えをもたないと、話し合い中に、その場限りの回答しかできず話が續かないことが分かりました。しかし、自分の考えをもっていると、話し合いで問題を解決できたり、会話が續いたり、より深い内容の話ができました。そこから、自分の考えをもつことが必要だと分かりました。

次に「普段使っている言葉遣い」を使用することです。学習の中で話し合いをすると、つい改まった丁寧な話し方をすることがあり、自分が本来伝えたい内容が、伝えられないことがあります。そこで、どの学年でも普段から使っている話し方をすることで緊張なく話し合える姿が研究を通して見られました。

その他の成果として、学校生活の中でこどもたちの話す力・聞く力だけでなく、あらゆる可能性を引き出していくことも我々の責務であり、こどもたちにはその力が無限大にあることも今年度の研究を通して確信する良い機会になりました。

離任式について

今年度から離任式を3月に実施します。令和7年度離任式は3月23日(月)に行います。よろしくお願いいたします。